

次に、議席2番、飯田進君。

〔2番 飯田 進君登壇〕

○2番（飯田 進君） 皆さん、改めましてこんにちは。傍聴にお越しの皆さん、お忙しい中、大変ありがとうございます。議席2番、飯田進でございます。議長の許しを得ましたので、これより一般質問させていただきます。本日は、教育関連で3項目、5点ほど質問させていただきます。

まず初めに、いじめ質問について。昨年10月に滋賀県大津市でいじめを受けたとして中学2年の男子生徒が自殺した問題、警察が学校や教育委員会に異例の家宅捜索を行うという事態にまで発展し、新聞やテレビでも連日のように話題として取り上げられ、いろいろ議論され、大変大きな社会問題となっています。いじめは、どこの学校でも起こり得ることであり、実際程度や件数の差はあれ、ほとんどの学校が抱えている問題であると聞いております。解決は簡単ではない、根の深い問題でもあります。私は、いじめの問題はある意味社会のありようそのものに深くかかわっているのではないかと感じるとともに、だからこそ私たち大人が解決に向けて真剣に、そして真摯に向き合わなければならない問題ではないかと考えます。

報道によれば、学校、教育委員会ともに子供目線に立ったの真剣な問題解決の姿勢が見られず、事件発生後も誠実さに欠けると思われる不適切な対応により、大津市のいじめ問題はこれほどの騒ぎとなってしまいました。その後もいじめによると思われる自殺が各地で連鎖的に生じております。

この境町においても、決してこれは例外と言えず、いじめ問題で大津市のようなことがいつ起こるかもわからないのではないかと、そう思うと大変心配なことであります。こういった悲劇を生まないためにも、いじめ問題についてしっかりと議論し、対策を講じることが大切であると思っております。そこで、以下の点についてお伺いいたします。

1点目、このたびの大津市教育委員会の対応についてどう思われますか。

2点目、境町の各小中学校では、どのような対策がなされていますか。

3点目、境町教育委員会は、どのような対策を考えていますか。

次に、2項目め、小中学校の環境整備について。今夏も連日猛暑が続き、各地で熱中症により倒れる人が多数出る異常な暑さでした。学校は夏休みということもあり、児童生徒は暑い時期の大半は在校しておりませんが、それでも夏休みに入る前や休み明けでも大変暑い日があり、今なおまだ続いている状況です。熱中症は、室外のみならず、室内でも発症する危険が大きいと聞いております。我慢することを教えることも教育という人もいますが、高校でも既にエアコンが設置されている時代、小中学生にも同じように快適な環境の中、学校生活を送らせてあげるべきであり、エアコンの設置導入を検討すべき時期に来ているのではないかと考えます。

そこで、1点目として、猛暑対策として町内各小中学校へエアコンを設置すべきではないか。これは、昨年9月の第3回定例会でも質問しましたが、再度お伺いいたします。

次に、教育環境整備の2点目、これも昨年9月の定例会で、そのときは境小体育館のみを対象として質問しましたが、今後体育館の改修工事は境二中と境小を除いた4つの小学校と多数予定されており、省エネ対策の一環としてLED照明器具の導入も検討すべき事項ではないかと考えます。年々製品の改良、低価格化が進んでいると聞きますが、そういった環境の変化も考慮して、導入を検討すべき時期に来ているのではないかと考えるのですが、その考えはあるのか、これが2点目の質問です。

最後に3項目め、これも前回6月の定例会で町内全児童へのヘルメットの着用について考えはあるのかとの質問をしましたが、そのときの教育次長の答弁では、県教育長の答弁を引き合いに、県でも検討していて、いずれ早い時期に義務づけられるのではと話されましたが、その後どうなっているのでしょうか。

以上、3項目、5点について、執行部の誠意あるご答弁をお願いいたします。これで第1回目の質問を終わらせていただきます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問の1項目めに対する答弁を求めます。

教育長、武井貞男君。

〔教育長 武井貞男君登壇〕

○教育長（武井貞男君） 改めまして、こんにちは。どうぞよろしくお願いを申し上げます。それでは、飯田議員さんのいじめの問題についてのご質問にお答えをしたいと存じます。

まず初めに、大津市教育委員会の対応について、どう思われるかというふうなご質問にお答えをさせていただきます。私は、テレビや新聞等のマスコミの情報のみによって判断しているわけでございますから、その点からの感想を述べさせてもらいたいと思います。1つの思いと2つの感じを持ちました。

まず、1つの思いなのですけれども、教育委員会はもう少し学校に指示、指導して、学校になぜいじめが起こったのかというようなことを明らかにすべきだと、こういうふうに思いました。なぜかと申しますと、教育委員会は、学校に対して人的、物的、運営的に管理をすることができるからでございます。

2つ目は感じなのですが、子供たち自身がいじめをさせない、いじめをしないという態度を身につけさせる必要があるのではないかと、こういうふうに感じました。

そして、3つ目は、私たち大人はもっともっと早くいじめに気をつけなければならないという責任感があるというふうに感じました。以上、1つの思いと2つの感じでございます。

続きまして、境町の小中学校ではどのような対策がとられているのかというふうなご質問にお答えをさせていただきます。先ほどの濱野議員さんへの答弁と重複をいたしますが、境町教育委員会としても、いじめはいつでも起こり得るという認識のもと、これまで学校のいじめ防止体制の点検を指示し、指導主事の先生や学校教育指導員の先生、さらには境町フレンドスクールの先生方を中心として、学校のいじめ対策を行っているところであります。これらを踏まえて、各学校では各学期ごとに年間3回、児童生徒に対してアンケートの実施をしているところであります。

また、本人や保護者との面接など、いじめの早期発見、早期防止に取り組み、常に担任の先生方が児童の表情をつぶさに観察するよう心がけております。

また、さらには各学校、校長先生、教頭先生で編成するいじめ対策委員会の設置も考えておりますので、よろしくご理解のほどお願い申し上げたいと存じます。

次に、境町教育委員会はこれからどのような対策を考えているかというふうなご質問でございますが、今回新たな取り組みとして、先ほども申し上げましたけれども、境町の小中学校、小学3年生から中学3年生を対象として、楽しい学校生活を送るためのアンケート、いじめ発見心理テスト、別名Q-Uテストを実施する予定でございます。

また、児童生徒、先生方、保護者、地域の皆さんを対象に講演会の実施も考えておりますので、よろしくどうぞお願いをいたします。いじめ対策は、子供の未然の対策が最も重要であると考えております。

ので、子供の奥まで届く指導の推進、あるいは生徒指導、連絡協議会等の連携を密にしまして頑張っていきたいと思えます。

さらにもう一つ添えたいのですけれども、月1回の校長会があります。その校長会の際にぜひ、うちの学校ではこれこれ、いじめに対してはこうだよと情報交換といいますか、意向の交換と申しますか、そういうようなことをしっかりとやって、万全を期していきたいと思っております。

いずれにいたしましても、町内2,232名の子供たちから絶対いじめをなくすと、いじめはないと、いじめは受けないというような体制で臨みたいと存じますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 1項目めなのですけれども、いじめの問題は、今回ばかりでなく、これまでも数多く発覚して、社会的にいろいろ大きな問題が出ておりました。しかし、今回の事件は、隠蔽体質というか、これも今までも言われてきたことかと思うのですが、それが余りにも露骨な隠蔽体質というのが露呈したような結果、こういった大きな問題となり、全国的に何か学校現場、教育現場ですか、学校及び教育委員会に対する不信感というのが高まってきているのではないかという心配がございします。こうした状況を払拭し、改善するというのは大変なことかと思いますが、そういったまだ現実化していない境町の教育の現場でございしますが、仮にこういったことが露呈するような事態がないとも限らない。できればそういう事態にならないように、しっかりと町の教育行政、方針として骨格となるような基本のお考えがありましたら、その辺をご答弁お願いいたします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育長、武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） 飯田議員さんの質問に答えさせていただきます。

信頼感の問題ですけれども、やはり信頼をされる一番基本的なことは、団体間において報、連、相の確だと思えます。報告をする、連絡をする、相談をする、そして確認をすると、どのような間においても、報、連、相をまずしっかりとやることだと思っております。そうすることによって、隠蔽の体質も解消されるのではないかというふうに思っております。いずれにいたしましても、信頼を支えるものは報、連、相、確だと、こういうふうなことを基本的なものとして考えております。

答えになっていないかもしれませんが、以上でございます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 大津市の問題は、境町として感じるのは、総論的な話でございますので、その点は町としてもしっかりとこれから基本的なことをよく考えて対応していただきたいと思いますというふうに思えます。これはお願いということで。

次の質問をさせていただきます。先ほど各学校でアンケートを行っているということで、あるいは先生方の随時観察というようなお話がありました。基本的には各学校にこういったいじめ対策についてのマニュアル的なものはあるのでしょうか、ご回答をお願いいたします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育長，武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） 質問にお答えをいたしたいと思います。

いじめに関するマニュアルはあるかどうかというようなご質問でございますけれども，各学校にいじめ対策委員会というのはありまして，そこである程度はつくっているのだと思いますけれども，町統一したものはございません。ただし，県から生徒指導ハンドブックというような形で冊子が出ております。その中には，マニュアル的なものが盛り込まれていて，それらを参考にして指導しているところが現在の段階だと思います。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し，質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 先ほどの答弁で，校内いじめ検討委員会ですか，これ考えているというようなお話でしたけれども，今既に存在する，そういう組織として活動はされているということですか。先ほどの答弁では，考えているというお話でしたけれども，実際活動，もう既にそういった機能しているということでしょうか。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し，答弁を求めます。

教育長，武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） お答えをいたします。

機能している段階です。機能しております。考えていますというようなところもありましたけれども，実際には機能しております。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し，質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 言葉の言い回しで，実際あるというか，これからも改善というか，そういうあれで，よくとれば機能するような方向で設置してあるようなお話と受けとめてよろしいのでしょうか。

それでは，先ほどのアンケートなのですけれども，年3回のアンケート，これよその自治体でたまたま聞いたら，何かその題目というか，子供たちにはいじめ問題のアンケートと思われないような題目でのアンケートもあるということで，実際境で行われているアンケートというのは，そういった子供たちがいじめ問題を対象として問われているということがわかっているアンケートなのでしょうか。

また，関連して，アンケートだけではないのですけれども，アンケートに基づいていじめの発見というのは，やはりいじめの発見そのものはアンケートが一番発見の端緒となるというか，それは多いのでしょうか，ご回答をお願いします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し，答弁を求めます。

教育長，武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） お答えをいたします。

小学校と中学校とは若干違いますが，小学校の場合にはストレートにいじめ云々というようなことではなくて，悩み相談票といいますか，悩み事というようなことで項目，悩み相談的なアンケートの内容でございます。それから，中学校におきましては，これもやはりストレートにいじめというようなことを出さないで，生活安心相談と，調査というような形で，その中にいじめも含められていると思うので

すが、そういう形で調査をしております。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） これ先ほどの濱野議員の質問の回答の中にもあったのですけれども、Q-Uテストですか、あれは何かいじめの発覚、学力低下の発見、不登校の発覚とかそういった効果があるということなののですけれども、質問の具体的な、こういった、随分効果があるというお話ですけれども、具体的な内容はどのような質問なのか、ちょっとご説明していただきたいのですけれども。

〔「資料出せないんですか」と言う者あり〕

○議長（橋本正裕君） そのアンケートの資料というのは配付はできますか。

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育長，武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） お答えをさせていただきます。

先ほどのQ-Uテストの実際の内容でございますけれども、生活心理テストと、心理というのが入るのです。心理ということは、心の中というようなことですので、内容についてはお披露できないのではないかとこのように思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

〔何事か言う者あり〕

○教育長（武井貞男君） 幾つか質問事項がございまして、その間に該当にするやつを丸印をつけるというような形だと思います。

○議長（橋本正裕君） 続きまして、教育次長。

○教育次長（島根孝男君） 飯田議員さんの質問にお答えをしたいと思います。

先ほど教育長のほうから答弁がありましたけれども、実物についてはこういうものです。中の項目については、教育長も申し上げましたように、心理テストに係るものですから、あくまでもこれは非公開ということで実施します。ですから、結果云々よりもそれ以前の問題の、この中身についてはまことに申しわけありませんけれども、公開することができませんので、よろしくお願ひをしたいと思います。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） その詳しい中身ではなかったのですけれども、そういう効果があるということであれば、どんなものかなと思って、今ちょっと形式的な説明でよろしかったのですけれども、また後でそういった、調べさせていただきます。

いじめ対策ということで、これ家庭や地域の協力も必要であると思いますが、やっぱりそういった面で家庭、地域との連携、どのように図ろうかという、そういった組織的な面での活動というのはなされているのでしょうか。お答えいただきたいと思います。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育長，武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） お答えをいたします。

家庭や地域との連携はどのようなふうにするのかというようなことだと思っておりますけれども、やはりこれも教育委員会から、あるいは学校からいろんないじめに対するまず資料を提供するということです。

そして、資料提供することによって、家庭内でお話し合いをしていただくというような方法が1つあると思います。

それから、生徒指導連絡協議会というようなこともあるのですが、その生徒指導連絡協議会の活動を通して、家庭に、地域に呼びかけるというような方法もあると存じます。いずれにいたしましても、先ほど、この前ですか、申し上げましたけれども、いろんな団体、機関と報、連、相、確を通して展開するということが最大の模索ではないかと、こういうふう考えております。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） いじめが問題が発覚すると、担当の教師なり学校長、評価を下げる、下げられるということですか、下げられると言われておりますが、これこういったことがどうしても隠蔽体質につながるのかなと思うところではありますが、しかし逆にいじめ問題に対して、もう積極的に努力している教師、学校現場の方、そういった人たちに対する評価をもっと重視してもらえるような評価の方向へ進んで、評価できるような体制というのは考えられないのでしょうか、ご答弁お願いいたします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育長、武井貞男君。

○教育長（武井貞男君） お答えをいたします。

7月の31日ですか、県内の教育長会議がございまして、そのときに県の小林教育長さんからお話があったのですが、いじめの数が多い学校は、学校としての評価が悪いというようなことは絶対にありませんと、そんな見方はしませんと、かえっていじめの回数が多く登録された、届け出されたほうが、学校の運営が非常にすぐれているというようなことで、かえって学校評価を高くするというふうにお話がありました。そのように、数と学校評価というのは関係ございませんというようなご指導でしたので、お知らせいたします。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 本当に何も起こっていないときこそ、その指導が大切ではないかと思えます。本当はいじめは絶対許されないことである、そういったことを日ごろより本当に地道に指導、教育されて現場に当たられることを切に願う次第でございます。この質問は以上で終わりにいたします。

○議長（橋本正裕君） これで1項目めについての質問を終わります。

次に、2項目めに対する答弁を求めます。

副町長、齊藤進君。

〔副町長 齊藤 進君登壇〕

○副町長（齊藤 進君） それでは、続きまして私のほうから2点目の小中学校の環境整備に関して、猛暑対策としての町内各小中学校へエアコンの設置をすべきでないかといったご質問に対し、お答えを申し上げます。

先ほど議員ご指摘のように、9月の定例議会の中でもこの問題が出たと、こういうことでございますので、その後の経緯も踏まえましてご答弁を申し上げたいと思えます。今回境第一中学校の南側の校舎

でございますが、ここにつきましては、国によりまして、平成24年度当初予算にて創設をされました東日本大震災復興特別会計、これの活用をしまして、7月の臨時議会におきまして可決をいただきました校舎耐震補強工事の中で、一体的に行う工事の中で、一中の南側校舎につきましては、エアコンを設置をするという予定になってございます。

残りの全ての議員ご指摘の校舎につきましても、翌年度以降、つまり平成25年度、26年度でございますが、実は文科省のほうで平成25年度公立学校の施設整備費交付金事業に係る建築計画の調査が来てまいりまして、その中では、当町といたしましては、平成25年度に境小学校と猿島小学校、それと森戸小学校の3校、これらを大規模改造工事、今回の大規模の補強工事とまた別でございまして、そういったこと、別の事業として、いわゆる空調の事業として予定をいたしまして、さらにその翌年度の平成26年度につきましては、配管が終わっております長田小学校、それと静小学校、それから境の第一中学校、それと境の第二中学校の4校を、財政事情等を十二分に町といたしましては勘案をいたしまして、そういった後にこれらの4校を国に申請をできるものであればしていきたいと、こういう考えを現時点ではしてございます。

ただ、非常に耐震関係、学校の予算につきましては、住民懇談会の中にも起きましたように、災害に強いまちづくりの中で、やはりイの一番に取り組んでいかなければならないのは耐震補強でございます。したがって、次のご質問の空調関係等々につきましても、国において推進という立場はございますが、ただ町としてはそういった現実的な財政の課題といったものがございまして、1回目の答弁の中では財政事情を十分勘案して、検討をしていきたいというご答弁でひとつご理解のほど、よろしくお願いを申し上げたいというふうに思っております。

続きまして、省エネ対策の一環として今後予定されている各小学校の体育館改修工事に合わせてのLEDの照明器具の導入を検討すべきではないかのご質問でございますが、これも先ほどと同様に、9月の議会の中で議員のほうからご指摘をいただいているところでございます。その後の動きにつきましては、ご答弁を申し上げたいと思います。LEDの照明器具につきましては、消費電力が少なく、二酸化炭素の排出抑制効果が高い、寿命も長いというようなことから、環境教育や環境保全などの施策の推進の面からも、最も有効であるというふうに考えられておるわけでございます。

こういったことを受けまして、現在改築の工事発注に向けて進められております境第二中学校の体育館につきましては、LED照明を導入をした設計というふうになっておるところでございます。これにつきましては、設計業者のほうを呼びまして、LEDの検討、これらにつきまして教育委員会及び町長、私というふうなことで合同で検討いたしまして、二中の体育館の設計の段階にはどのLEDが一番合うのか、こういったことでの細かい検討、あるいは業者からの提案、業者からの情報、こういったものを伺いながら、既に決定をしてきたということでございます。なお、今後予定をされております長田小学校あるいは猿島小学校、森戸小、静小の4つの体育館のこれらの耐震補強工事が予定をされておるところでございますが、これらにつきましても、いわゆる導入のコスト及びランニングコスト、そういった維持費等を十分勘案をしていながら、具体的なそれぞれの体育館ごとに一つ一つ設計業者とともに具体的に協議をしながら決定をしていきたいと、このように考えているところでございますので、ひとつご理解のほどよろしくお願いを申し上げたいと思います。

私からは以上でございます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） エアコンなのですけれども、これは各小学校、数としてどのぐらい設置予定があるのか、お聞きします。

あと、昨年境小の体育館で、あのときもLEDの問題、その後ランニングコストですか、そういった比較というか、何かそういった資料を業者のほうから出ているのかと思われそうですが、その辺の内容、どの程度軽減されるのか、比較した場合、そういった数字をもしお教えいただければ、ご回答お願いいたします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（島根孝男君） それでは、私のほうから飯田議員さんの再質問にお答えをさせていただきたいと思います。

まず、エアコンを設置するクラスの数ですけれども、具体的に学校名を挙げていきます。静小が16、長田小が21、一中が14、二中が17、境小が30、猿島小が19、森戸小が19、これは普通教室と特別教室を合わせた数字です。合計136教室になります。

以上がエアコンを設置するクラスというか、部屋の数です。

それと、2点目のLEDの関係の再質問だったと思うのですが、実は先ほど副町長のほうからも答弁がありましたように、二中の体育館については、トイレ等々を含めまして、特にアリーナ部分、これについて今回LEDのランプを採用した経緯があります。前回境小の体育館のときに、アリーナ部分にはLEDは使わないのかというようなご質問が多分あったと思います。そのとき非常に単価的に高く、費用的にどうしても予算と合致しないということで、導入を見送った経緯がありますけれども、今回二中の体育館につきましては、非常に技術の進歩も目まぐるしくて、単価も相当安くなっておりましてので、LEDを導入することに至りました。

ランニングコストですけれども、普通の水銀灯で計算しますと、年間で電気料が184万2,900円、LEDですと79万2,000円ということで、約50%以下になりますか、電気料で。3年間ですと552万8,700円、LEDですと237万6,000円、その差は315万2,700円となります。さらに10年後のトータルの費用を計算しますと、普通の水銀灯が1,842万9,000円、LEDですと792万円ということで、1050万9,000円の差が出てくるということで、長期的に見ればやはりLEDを導入することがよろしいかなというふうを考えております。

以上、クラス数と電気料金との報告を終わります。よろしく申し上げます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） エアコンにつきましては、これから国への補助等を申請して、具体化するという見込みで受けとめていいのかと思いますが、LEDについては、何か今のお話聞くと、本当に大変ランニングコストを考えると、もう10年も使うと大変な差が出るということで、これからあるいは技術の開発でもっと低額化もされるかもしれませんけれども、やっぱりいつかどこかの時点でやるとしたら、たまたま今回はそういった改修工事を大規模でやる、そういった中でやるのが、あるいは経済的な



のかなと思いますので、ぜひ進めていただければと思うのですけれども、町長、いかがでしょうか。導入のほうの確約とまでいかなくとも、どう、検討のほう。よろしく願いいたします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

町長，野村康雄君。

○町長（野村康雄君） 飯田議員さんにお答え申し上げます。

昨年のたしか9月だったと思うのですけれども、境小の件でお答えしてあったと思うのですが、これ一概にどちらがいいとも言い切れない部分はあるのです。例えば今後二中の場合、設計業者と副町長、教育委員会で一緒に協議させてもらいました。これ新築であります。そうしますと、LEDをつけた場合、昇降機、いわゆる電球を取りかえるための設備、あれだけでもたしか一千数百万かかるのです、あれ1個つけるだけで。さらに電気代は先ほど比較したのが、あれ二中のやつですよ、たしかね。

〔「はい」と言う者あり〕

○町長（野村康雄君） そういう差が出るということと、あと中学校の場合は夜使う時間が比較的多いということ、こういうものを比較してやってみましたら、いわゆる上げ下げの機械なのですけれども、これ10年に1遍しか使わないのです、普通の照明でやっても。すると、10年の間に下手すると使えなくなってしまうというのです、よく聞きましたら。メンテナンスをやつていかなければならない、毎年毎年。そういう費用とか全て計算してみたのですけれども、それでも若干正直言ってLEDのほうが高いのです。でも、これは新しく建てるものだから、LEDにしようよということで、結論的にLEDを使用させていただくことにいたしました。コスト的にはやはり3倍ぐらいたしか高いのです。

ただ、小学校の場合、改築でございまして、たしかここにも書いてあるのですが、境小のところにも申し上げたと思いますが、小学校の場合は夜使う時間が比較的中学校より少ないということ、それと今言った新たに設備をつくるわけでありませんから、ある程度は今あるものを利用してやつていかなければいけないということと、あと電球を取りかえる期間ですけれども、少なくとも一般の照明でも10年以上持つということを踏まえまして、使う時間と期間とかそういうものの計算を全てこれから出していく中で、確かに高いお金を出せばいいことはわかっているのですけれども、3倍も4倍もかかるということになりますと、これ設備のほうが、例えば9,000万ぐらいたったでしょうか、体育館の今度の改修工事は。そのうち2,000万以上を照明だけで占めてしまうということになりますと、さらに2,000万照明の器具のために多く予算がかかるという、そういうことも考えられますので、これらはもう一回設計業者と学校関係、教育委員会含めてよく検討させていただいて、結論を出させていただきたいと、このように思っておりますので、よろしくご理解をいただきたいと存じます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田進君） 電気本体だけではなく、昇降機が設備がかかるということで、長もちするのであれば昇降機なしで固定でもいいのかなと思うのですけれども、その辺も十分検討されてのことだと思っておりますので、もうちょっと検討していただければあれかなと思うのですけれども、この質問は以上で結構でございます。

○議長（橋本正裕君） 以上でよろしいですか。

〔何事か言う者あり〕

○議長（橋本正裕君） 漏れ。

町長，野村康雄君。

○町長（野村康雄君） 済みません，先ほど言い損ねましたが，二中はそういうことで，昇降機はつけなかったことになりました，LEDを使うということで。昇降機のメンテナンスと，1階にやぐらを組んで取りかえるのとどちらが，計算したらはるかに20年に1遍だったら，昇降機つけるよりもそっちのほうが安いのです。コスト的に比較にならないぐらい安いです。そういうものを考えまして，昇降機はつけないということで，二中の場合は。ただ，LEDですから，20年は最低もつだろうということですから，その20年のメンテナンスを考えたら，そのときにやぐらを組んで持ってきてもらってやったほうがはるかに安いということが明確になりましたので，そういうことで，つけないということになっています。

○議長（橋本正裕君） これで2項目めについての質問を終わります。

次に，3項目めに対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長 島根孝男君登壇〕

○教育次長（島根孝男君） それでは，飯田進議員の第3項目め，児童の安全対策として，前回の定例会で質問した町内全児童へのヘルメットの着用については，その後どうなっているかのご質問にお答えをしたいと思います。

ヘルメットの着用につきましては，県内44市町村のうち，10市町で着用しているところであります。着用率は23%弱であります。しかし，近年の交通量の増加，さらにはドライバーの不注意等による不慮の事故が多発をしているところであります。このようなことから，児童の安全確保のため，ヘルメット着用の有効性は認識しております。今後保護者アンケート等を実施しながら，安全性について調査してまいりたいと考えております。

前回の定例会以降，参考資料といたしまして，ヘルメットの強度あるいは形，さらには重量，単価等を取り寄せているところであります。なお，多額の予算措置が必要となりますので，財政面を考慮しながら，今後十分に検討を重ねてまいりたいと思っておりますので，ご理解のほどをよろしくお願いします。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し，質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田進君） ちなみに，導入を決定している自治体ですか，ちょっと内容を教えていただければ，また特に近隣の自治体，どういう状況か，ちょっとお教えいただけますか。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し，答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（島根孝男君） それでは，飯田議員の再質問にお答えをさせていただきます。

第1回目の答弁の中で44市町村のうち10市町ということで答弁をしましたけれども，まず近隣の自治体では，坂東市，これは全ての小学校です。全学年です。それと，五霞町さんが2校，小学校，これも全学年。それと，水戸市は1カ所の小学校です。下大野小学校という小学校なのですが，これは全学年着用になっております。それと，那珂市が11校です。これは任意です。那珂市については，任意の着用になっております。それと，茨城町が1校で，これは全学年，それと潮来市，これも1校です。これも全学年が着用しております。それと，行方市，これが学校数は3校，やはり全学年着用にしております。

それと、鉾田市が5校、これも全学年着用です。それと、稲敷市、これが1校です。下妻市が2校です。これも全学年の児童に着用がされております。

なお、ヘルメットの購入に当たりましての対応、金額の負担については、それぞれの自治体で全部違いますので、基本的には多くの自治体では個人負担ということで導入をしているところでございます。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 県のほうでもそういった検討しているということであれはすけれども、やっぱり町独自でも積極的に検討していただいて、本当に必要なものは必要ということで、早く導入を考えていただければと思うのですけれども、また今現在たしか新入生は、JAさんからでしょうか、黄色い帽子をいただいていると思うのですが、もし導入というようなこと、仮の話であれはすけれども、そういったことを考えれば、こういった費用の負担も保護者の負担も大変なものですから、そういったところで打ち切るというのではなくて、そういったJAさんからのほうの協力というような、得る方向での検討も考えながら、導入していただけるような、ちょっと厚かましい話なのですけれども、そういったことはいかがでしょうか。

○議長（橋本正裕君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

教育次長。

○教育次長（島根孝男君） それでは、飯田議員さんの質問にお答えをさせていただきたいと思えます。

ヘルメットの早期導入をしたらいいのではないかとという再々質問だったと思うのですが、いずれにいたしても相当数の費用が必要になってきます。平均して1個3,000円します、児童用のヘルメットは。現在境町の小学生の人数ですけれども、概算で1,500名ほどいらっしゃいます。細かく言いますと、正確に言いますと1,471名です。ですから、3,000円を1,500人ぐらいたと約500万円の費用が必要になってきますので、これらについても財政担当とよく協議しながら、早期に取り組んでいきたい、このように考えておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

それと農協さんから長い間ご支援をいただいていますところの黄色い帽子もあります。これらについても、長年のご協力をいただいているところでございますので、JA茨城むつみさんともご相談をしながら、ヘルメットの着用とあわせて協議していきたいと思えますので、ご理解をいただきたいと思えます。

以上です。

○議長（橋本正裕君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○2番（飯田 進君） 1人当たり3,000円、これ小学生ですから、6年間成長に合わせて大分途中でまた交換も必要になる。さらに倍費用係る負担を強いるようなことになるかと思えますが、安全を考えた場合、3,000円という値段が高いか安いかわかりませんが、それは何とも言えませんが、十分検討していただき、保護者等のアンケートで随分その辺の確認をいたしまして、ぜひとも導入のほうを進めていただければと思えます。

以上で質問終わりたいと思います。

○議長（橋本正裕君）　これで飯田進君の一般質問を終わります。